

# Sun+Oracle solutions Vol.1

可用性・パフォーマンスに優れたバックエンド・システムにより、  
都市型生活者のこだわりと主張、選択眼を演出する  
高品質なサービスを快適かつ低コストで提供

Sun Solutions

## Sun Fire™ V1280

Oracle Solutions

## Oracle Real Application Clusters 10g



エキサイト株式会社  
インフラストラクチャー部  
部長  
吉田 幸永 氏



エキサイト株式会社  
インフラストラクチャー部  
システムオペレーション  
宇田川 泰彦 氏

ポータルサイト (<http://www.excite.co.jp/>) を核に、インターネット情報サービスを提供するエキサイト株式会社。多くのポータルサイトがユーザー個々のニーズを幅広く吸収し、サービスの幅を広げる「Open Wide」な戦略を展開する中で、同社ではユーザーのより高度な欲求や自己実現を目指す「Open Up!!」をミッションステートメントに差別化を推進しています。具体的には、20代から30代の都市型生活者をメインターゲットに、インターネットメディアにおいてこだわりと主張、選択眼を演出。目的意識・自己実現意識を共有するコミュニティを創出することで、バランスの取れた収益体質を築いています。その優位性を維持・拡充していくためには、堅牢で可用性が高く、しかもTCOに優れたIT基盤が不可欠です。特に高品質なサービスを実現するためには、バックエンドにおけるデータベースの高度化が重要な鍵を握ります。そこで同社では2004年12月にSunのミッドレンジ・サーバーSunFire V1280とOracle Real Application Clusters 10gによるグリッドコンピューティング環境を構築。自社のビジネス戦略にマッチしたIT基盤を実現しています。

<b>課題</b>	同社では従来、個々のサービスのクオリティを追求していく中で、新規サービスを立ち上げる際には個別のシステムを構築して対応してきました。しかし、サービスが増え続ける中で、その運用・管理コストが膨大になってしまったため、データベースの統合を決断。また、会員数も増加の一途をたどり、課金コンテンツの売上が伸びる中で、よりミッション・クリティカルなバックエンド・システムを実現したいと考えました。
<b>Sun製品</b>	RAS (Reliability, Availability, Serviceability:信頼性、可用性、保守性) 機能を実装し、将来のシステム拡張時においても柔軟な選択肢が可能なSun Fire V1280を8CPU/4ノードで導入。
<b>Oracle製品</b>	グリッド環境におけるワークロード管理の自動化、各ノード間を高速に同期させるCache Fusion技術の実装など、高可用性とパフォーマンスを同時に実現するOracle Real Application Clusters 10gを選定。



<b>メリット</b>	同社では多様なユーザーがさまざまな時間帯でアクセスしてくるため、負荷集中によるレスポンス低下などが課題でしたが、ロードバランシングにより負荷分散を行うことでアクセス集中時にもパフォーマンスを落とさずにサービスを提供することが可能になりました。新システムに移行後は、サービスが増え、アクセス数が倍増したにもかかわらず、レスポンスタイムは3分の1に短縮されるなど、確実なパフォーマンス強化が図られています。さらにOracle Enterprise ManagerやOracle Real Application Clusters 10gの自動化機能などにより、TCOも50%以下に軽減。これにより、ユーザーに対して高品質なサービスを低コストで提供することが可能となり、競争優位性を支えています。さらには、将来への拡張性という観点でも、最大12CPUまで搭載可能なSun Fire V1280を採用したことで、スケールアップ、スケールアウトの両方の選択肢のもとに、最適なシステム拡充を行うことが可能です。
-------------	---

### Profile



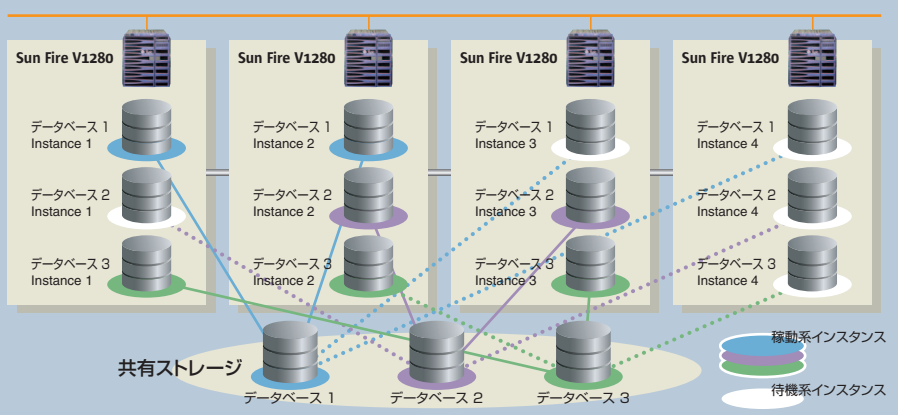
#### エキサイト株式会社

本社 東京都渋谷区恵比寿4-20-3  
設立 1997年8月  
資本金 32億円17百万円(2006年9月現在)  
従業員数 168名(2006年3月31日現在)

【事業概要】  
● インターネット情報サービス

# Sunとオラクルの強固なパートナーシップを高く評価 その優位性を存分に活かしたグリッドコンピューティング環境を実現

## Oracle RAC 10gとSun Fireによるグリッド構成



Application Clusters 10gを含めたOracle Database 10gの強化された機能です。クラスタリング、冗長性、パフォーマンス、バックアップ・リカバリなど、さまざまな観点から検証した結果、確かなアドバンテージがありました。そして4点目は、チャレンジ精神を大切にしたいという当社のスピリットの問題です。Oracle Database 10gは出荷されたばかりでしたし、Sun Fire V1280を8CPU/4ノードで稼働させるというのも当時ではかなり先進的であったと自負しています」

### 導入効果・拡充計画

TCOは半分以下まで削減、パフォーマンスは3倍以上になるテーマはディザスタサイトへの展開

新しいシステムには現在、既存サービス・コンテンツの70%が統合され、残りの30%も今後移行する予定です。また、新規サービス・コンテンツも続々と誕生し、同システム上で稼働しています。実際にシステムの運用・管理に携わるインフラストラクチャー部システムオペレーションチームの宇田川泰彦氏は、稼働状況を次のように語ります。

「導入以来、サービスが停止するようなトラブルは一切なく、安定稼働しています。実は私自身がOracle RAC 10gの経験が浅く不安があったのですが、Oracle Enterprise Managerなどを活用することで、予想以上に使いやすく、少数精鋭で日々の業務を遂行できています」

また同社では、TCOは従来の半分以下まで削減できたといいます。その結果、ユーザーに対して高品質なサービスを低コストで提供することが可能となり、それが同社の競争優位基盤となっています。さらには、サービスが増え、アクセス数が倍増したにもかかわらず、レスポンスタイムは3分の1に短縮されました。パフォーマンス強化されたため、ユーザーは快適に利用でき、同社にとっては機会損失が少なくなりました。

なお、同社ではすでに次なるシステム拡充を計画しています。最大のテーマは、ディザスタサイトへの展開。これについても、本番データベースのスタンバイ・コピーをセットアップおよび保持し、Oracleデータベースのあらゆる障害時リカバリ計画の基盤となるOracle Data Guardを活用することで、十分に実現できると実感しています。

### 導入の背景・課題

TCOの削減とユーザーサービスの向上を目的に、バックエンド・システムを再構築

「Open Up!!」のコンセプトのもとに、ターゲットユーザーのより高度な要求に応えるエキサイト株式会社のサービスとコンテンツは、多岐にわたっています。ポータルサイト「Excite」ならびに女性向けポータルサイト「Women.excite」を核に、WEBマガジン「Excite.ism」、女性向けWEBマガジン「Garbo」などを発信するとともに、総合音楽ポータル「Excite Music」、オリジナルオンラインゲームポータル「Game.excite」、オンラインセレクトショップ「Shopping.excite」などを運営。また、光接続ブロードバンドプロバイダ「BB.excite」や携帯向けコンテンツ提供サービス、インターネットカフェ「Excite Broadband Station」などのリアルスペースの運営も展開。さらにはオンラインゲーム配信、インタラクティブTVなどにおいて海外向けのサービスを展開するなど、日本発のグローバルポータルサイトとして、着実な歩みを続けています。その中であって、さらなるサービスの質的・量的向上を図るためには、IT基盤の強化・拡充が不可欠。特に会員管理やコンテンツへの課金などといったコア・サービスでは、バックエンドの仕組みが重要です。しかしながら同社では従来、サービス単位でシステムを構築してきたため、データベースは分散化し、それに伴いTCOも膨大化していました。そこで同社では2004年12月にSunとオラクルの組み合わせにより、データベース統合を踏まえた新しいバックエンド・システムを構築。ハードウェアに

はSun™ Fireplaneインターコネクトにより高い負荷が想定されるWebアプリケーションを強力にサポートし、ロードバランシングを最適化するバーチャルIPアドレス機能を備えたSun Fire V1280を8CPU/4ノードで構成。また、データベースには当時出荷されたばかりのOracle Database 10gを採用し、Oracle Real Application Clusters 10gによる、グリッドコンピューティング環境を実現した。

### システム選定理由

MTBF、MTTRを含めて徹底的な検証を実施しSunとオラクルの組み合わせを選定

システム選定の基準としては、MTBF（平均故障間隔）、MTTR（平均復旧時間）をはじめ、さまざまな観点から検証した結果、Sunとオラクルの組み合わせが最も高いRAS（信頼性・可用性・保守性）機能の提供が可能であると判断したからです。同社インフラストラクチャー部の吉田 幸永部長は、その経緯を次のように説明します。

「選定に当たっては4つのポイントがありました。まず、Sunとオラクルの強固なパートナーシップ。特にJ2EE™プラットフォームにおける技術協力により、将来への拡張性が保障されると考えました。もう1つのポイントは、既存サービスのアプリケーションとの親和性です。既存のシステムはOSもデータベースもさまざま、これらを移行・統合していくには、データベースとの親和性が不可欠でした。そのため、数社のデータベースで検証を行いました。そのため、数社のデータベースで検証を行いました。Oracle Database 10gが最も親和性が高く、移行しやすくと判断しました。3点目は、Oracle Real

本カタログの情報は、2006年11月現在のものです。実際の製品とは内容が異なる場合があります。

\*Oracle, PeopleSoft, JD Edwards及び Siebelは米国オラクル・コーポレーション及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。他社名又は製品名は、それぞれ各社の商標である場合があります。

\*Sun, Sun Microsystems, サン・のロゴマーク, Sun Fire, J2EEは、米国Sun Microsystems, Inc.の、米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Copyright © 2006, Oracle. All rights reserved.

### サン・マイクロシステムズ株式会社

<http://jp.sun.com/>

本社：〒158-8633 東京都世田谷区用賀4-10-1 SBSタワー 電話 (03) 5717-5000 (代)  
山王オフィス：〒100-6160 東京都千代田区永田町2-11-1 山王パークタワー12F 電話 (03) 4232-2400 (代)

### 日本オラクル株式会社

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町4-1

<http://www.oracle.co.jp/>

お問い合わせ窓口

Oracle Direct TEL 0120-155-096  
URL <http://www.oracle.co.jp/contact/>